

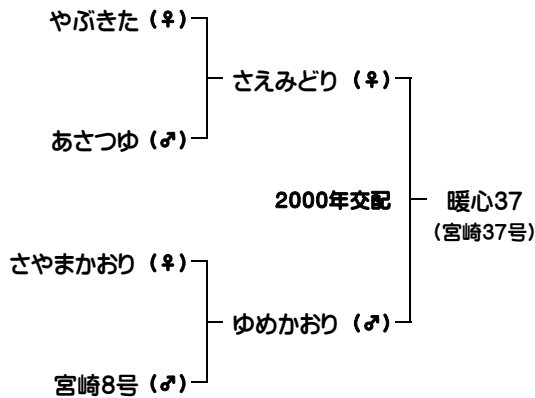
# 茶新品種 暖心37(だんしん37)

## 1 暖心37のセールスポイント

- (1)炭疽病や輪斑病，クワシロカイガラムシに強く，減農薬栽培が可能です。
- (2)煎茶や釜炒り茶として，色沢，香気，滋味が「やぶきた」，「さえみどり」以上に良質です。粉末茶としても色が良く，適性の高いことが確認されています。
- (3)「やぶきた」より，摘採が1日早い中生種で，裂傷型凍害に強く，収量は「やぶきた」より多収です。

## 2 育成経過

- (1) 育成地 宮崎県総合農業試験場 茶業支場  
(2000～2010年 農林水産省 茶育種指定試験事業)  
(2014～2018年 農林水産省・食品産業科学技術研究推進事業)
- (2) 交 配 2000年(H12)
- (3) 登 録 2019年8月 品種登録出願公表
- (4) 交配組合せ



暖心37の一番茶芽

## 3 暖心37の特性

### (1)形態的特性

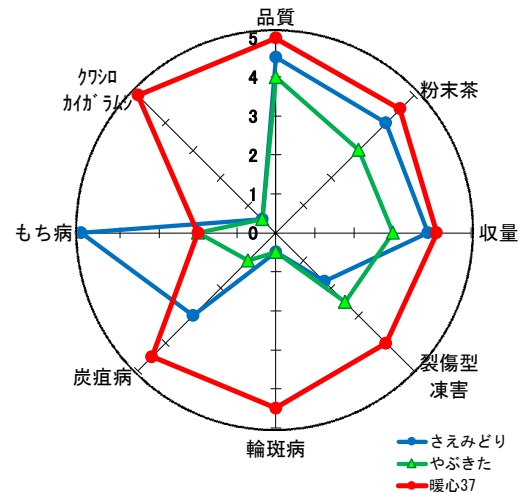
- ①樹 姿：やや直立
- ②株 張 り：やや大
- ③葉 の 形：長だ円
- ④葉の大きさ：中
- ⑤百 芽 重：やや軽い
- ⑥芽 揃 い：良

### (2)生態的特性

- ①樹 勢：やや弱
- ②挿し木発根性：良
- ③一番茶萌芽期：「やぶきた」 - 2日  
摘採期：「やぶきた」 - 1日

### (3)収量特性

一、二番茶ともに「やぶきた」より多収



暖心37の特性 (良・強=5~1=弱・劣)

## 4 栽培・加工上の注意点

- (1) 暖心37は炭疽病，輪斑病，クワシロカイガラムシの防除は必要ありませんが，もち病の常発地帯では防除が必要です。青枯れは「やぶきた」より弱いので注意が必要です。
- (2) 暖心37は，煎茶や釜炒り茶として優れ，粉末茶の原料である「もが茶」としての適性も高く，減農薬栽培の緑茶や粉末茶の生産に利用できます。

※命名の由来：南国宮崎の暖かい日差しをいっぱい浴びて育成された「暖心37」が，お茶を飲む人の体だけでなく，心までも温め癒せる品種になることを願って。